



TITLE:

京大広報 No. 533

AUTHOR(S):

京都大学広報委員会

---

CITATION:

京都大学広報委員会. 京大広報 No. 533. 京大広報 1999, 533: 646-655

ISSUE DATE:

1999-03

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/196581>

RIGHT:



# 京大広報

No. 533

1999. 3



除幕式（左から山田大津市長，山田滋賀県副知事，長尾総長，和田センター長） 関連記事本文650ページ

## 目次

### 大学の動き

名誉教授称号授与式 .....	647
遺伝子実験施設長の再任 .....	647
博士学位授与式 .....	647
「京都大学出向者懇談会」の開催 .....	647
平成11年度入学者選抜学力試験の 第1段階選抜状況 .....	648
Kyoto University Bulletin(『京都大学英文一覧』) をインターネット上で公開 .....	649
部局の動き	
生態学研究センター新研究実験棟竣工 .....	650
化学研究所共同研究棟竣工 .....	650

日誌 .....	651
訃報 .....	651
資料	
平成10年度教育実習実施状況 .....	654
お知らせ	
高等教育教授システム開発センター 第5回大学教育改革フォーラム 「大学授業をどう変えるか - 研究から実践へ」 .....	655

## 大学の動き

### 名誉教授称号授与式

平成11年2月18日（木）午前11時から、総長室において古澤 巖，三好郁朗両副学長，本席 佑大学院医学研究科長出席のもとに名誉教授称号授与式が

挙行され、長尾 真総長から人見滋樹元教授（大学院医学研究科）に称号が授与された。

### 遺伝子実験施設長の再任

清水 章遺伝子実験施設教授（ヒト・ゲノム解析分野）が、平成11年3月1日遺伝子実験施設長に再

任された。任期は平成13年2月28日までである。

### 博士学位授与式

平成11年1月25日（月）午前10時30分から、京大会館において、総長，副学長をはじめ、各研究科長，事務局長出席のもと、博士学位授与式が挙行された。

総長から、各授与者に対し学位記（平成10年11月24日付、及び同11年1月25日付）が手渡された後、総長の式辞があり、午前11時45分終了した。

今回の学位授与者数は、11月24日付課程博士33名，論文博士42名の計75名，1月25日付課程博士24名，論文博士46名の計70名であった。

各研究科別内訳は次のとおりである。

研 究 科	平成10年11月			平成11年 1 月		
	課程 博士	論文 博士	計	課程 博士	論文 博士	計
文学研究科	3名	4名	7名	2名	4名	6名
教育学研究科	-	1	1	-	1	1
法学研究科	-	1	1	-	1	1
経済学研究科	1	1	2	2	3	5
理学研究科	3	3	6	2	2	4
医学研究科	9	4	13	9	7	16
薬学研究科	1	6	7	-	4	4
工学研究科	10	15	25	4	14	18
農学研究科	3	7	10	5	9	14
人間・環境学研究科	2	-	2	-	1	1
エネルギー科学研究科	1	-	1	-	-	-

### 「京都大学出向者懇談会」の開催

本学では、「京都大学出向者懇談会」を、平成11年1月22日（金）午後6時から、ホテルサンフラワー京都（京都市左京区）において開催した。

この懇談会は、本学から他機関へ出向している事務系職員と事務局長等との懇談の場を設け、近況等情報交換を行うことを目的として年1回開催されるものであり、平成元年度より開催され、今年でちょうど10回目の開催となった。

懇談会では、初めに黒川 征事務局長から挨拶があり、次いで佐藤 存総務部長の発声で乾杯し、その後、事務局等事務局職員（28名出席）と出向者（138名出席）が和やかなうちに親睦を深めた。

なお、現在、本学から他機関等への出向者は、29機関に175名（補佐級16，係長級76，主任22，係員



61）となっており、他機関からは、13機関45名の補佐・掛長等を受入れるなど相互交流も積極的に行っており、近畿地区国立学校等機関において、人事交流の中心的な役割を果たしている。

## 平成11年度入学者選抜学力試験の第1段階選抜状況

平成11年度入学者選抜学力試験の第1段階選抜が行われ、2月12日（金）、志願者に通知された。学部別の合格者数は次表のとおりである。

学 部	募集人員	志願者数	志願倍率	第1段階選抜		本年度「募集要項」の第1段階選抜合格者の範囲
				合格者数	倍 率	
総合人間学部	前期	人	人	倍	人	倍
	前期	110	375	3.4	366	3.3
	文系	55	199	3.6	193	3.5
	理系	55	176	3.2	173	3.1
文学部	後期	20	396	19.8	321	16.1
	前期	190	597	3.1	597	3.1
	後期	30	399	13.3	300	10.0
教育学部	前期	40	133	3.3	133	3.3
	後期	20	129	6.5	129	6.5
法学部	前期	330	903	2.7	903	2.7
	後期	50	535	10.7	440	8.8
経済学部	前期	210	742	3.5	740	3.5
	一般	160	508	3.2	508	3.2
	論文	50	234	4.7	232	4.6
	後期	30	567	18.9	553	18.4
理学部	前期	280	970	3.5	937	3.3
	後期	31	1,073	34.6	1,029	33.2
医学部	前期	90	404	4.5	404	4.5
	後期	10	213	21.3	151	15.1
薬学部	前期	70	236	3.4	236	3.4
	後期	10	158	15.8	158	15.8
工学部	前期	883	2,316	2.6	2,316	2.6
	後期	102	1,103	10.8	1,004	9.8
地球工学科	前期	175	462	2.6	462	2.6
	後期	20	267	13.4	267	13.4
建築学科	前期	80	209	2.6	209	2.6
	後期	10	94	9.4	40	4.0
	A選抜	5	44	8.8	20	4.0
	B選抜	5	50	10.0	20	4.0
物理工学科	前期	220	627	2.9	627	2.9
	後期	25	330	13.2	330	13.2
電気電子工学科	前期	117	291	2.5	291	2.5
	後期	13	145	11.2	145	11.2
情報学科	前期	81	204	2.5	204	2.5
	後期	9	96	10.7	72	8.0
工業化学科	前期	210	523	2.5	523	2.5
	後期	25	171	6.8	150	6.0
農学部	前期	240	800	3.3	800	3.3
	後期	60	872	14.5	872	14.5
合 計		2,806	12,921	4.6	12,389	4.4
	前期	2,443	7,476	3.1	7,432	3.0
	後期	363	5,445	15.0	4,957	13.7

（注1）総合人間学部前期及び理学部前期は、大学入試センター試験の5教科6科目の合計得点が800点満点中550点以上の者を第1段階選抜合格者とする。

（注2）理学部後期は、大学入試センター試験の3教科3科目の合計得点が500点満点中300点以上の者を第1段階選抜合格者とする。

（注3）工学部後期の地球工学科・物理工学科・電気電子工学科は、3学科後期募集人員の合計の約12.0倍とする。

（注4）法学部（後期日程）と経済学部（後期日程）の募集人員には、「外国学校出身者のための選考」の20人（法）と10人（経）が、志願者数には45人（法）と29人（経）が、第1段階選抜合格者数（第1次選考合格者数）には26人（法）と15人（経）がそれぞれ含まれている。

## Kyoto University Bulletin (『京都大学英文一覧』) をインターネット上で公開

国際交流委員会の編集により隔年に発行されている Kyoto University Bulletin (『京都大学英文一覧』) の1998/1999年度版が、平成11年2月4日にインターネット上で公開された。

Kyoto University Bulletin は、京都大学における教育・研究を英文で紹介する冊子である。数年前から、国内外からの閲覧を容易にすべく、ホームページ上での掲載が検討されてきたが、この度大型計算機センター及び附属図書館の協力により実現した。

同 Bulletin のホームページは、京都大学ホームページ内「京大の紹介」及び「About Kyoto University」にリンクされており、キーワードによる検索も可能となっている。

京都大学ホームページの URL は、<http://www.kyoto-u.ac.jp/>。また、Kyoto University Bulletin ホームページの URL は、<http://ddb.libnet.kulib.kyoto-u.ac.jp/common/english/kub.html>。

**KYOTO UNIVERSITY**  
**BULLETIN**  
**1998/1999**

The Kyoto University Bulletin is edited and published  
by the Committee for International Academic Exchange,  
Kyoto University.

This is the online text. Hard copies are also available.

The *Bulletin* aims to outline the research and education currently conducted  
in Kyoto University

go to **CONTENTS**      go to **SEARCH**

Please note:

- \*The information in this bulletin was provided by the Graduate Schools, Faculties,  
Research Institutions, Centers and other bodies and is based on information believed  
to be correct as of May 1, 1998, and is subject to change without notice.
- \*Kyoto University Bulletin is published every two years. The next edition will be issued in  
the year 2000.

Copyright (c)1998, 1999  
Editorial Committee for Kyoto University Bulletin,  
Kyoto University

International Affairs Division, Kyoto University.  
Yoshida-Honmachi, Sakyo-ku, Kyoto 606-8501 JAPAN  
Telephone: +81 (75) 753-2047  
Facsimile: +81 (75) 753-2042

E-mail: [koryu52@mail.adm.kyoto-u.ac.jp](mailto:koryu52@mail.adm.kyoto-u.ac.jp)  
URL: <http://www.adm.kyoto-u.ac.jp/kokuryu/e-index.htm>

Last modified: February 5, 1999

**000826**  
Since 04/Feb/1999



## 部局の動き

### 生態学研究センター新研究実験棟竣工

生態学研究センターに念願の新研究実験棟が天津市上田上平野町に完成し、平成10年12月16日に長尾真総長はじめ学内外の関係者約220名の出席を得て、竣工式を挙行了した。

式に先立って、長尾総長の筆による銘板（信楽焼陶板）の除幕式が長尾総長はじめ、山田新二滋賀県副知事，山田豊三郎大津市長，和田英太郎センター長によって行われた。

式では和田センター長の挨拶，長尾総長の式辞，松井道太郎施設部長の工事報告に続き，國松善次滋賀県知事（代読 山田副知事），山田大津市長，安部矩敏文部省文教施設部大阪工事事務所長の来賓祝辞があり，工藤智規文部省学術国際局長ほかからの祝電披露の後，工事関係者に感謝状の贈呈を行った。式に引き続き研究実験棟・施設の見学を行い，その後，会場をロイヤルオークホテルに移して記念パーティーを催した。

生態学研究センターは，生態学の基礎的研究を推進する全国共同利用研究施設として，5研究部門の組織で平成3年4月に設立され，天津市下阪本の琵琶湖畔，旧大津臨湖実験所の建物と，北部構内の旧植物生態学研究施設（理学部附属植物園内）の建物を理学部から借用し，分散して研究・教育を行ってきた。

しかし，これらの建物はその後の部門の新設や国内外の研究者との共同研究が活発になるにつれ狭隘となり，さらに，研究室の分散により研究等に支障をきたしていた。

平成8年度から始まった移転統合計画に基づき，



天津市上田上平野町の「びわこ文化公園都市」の丘陵地の一角に平成10年8月に研究実験棟が完成し，9月下旬～11月中旬に下阪本の施設の移転を終え，このほど関係者への披露を迎えたものである。

完成した研究実験棟は鉄筋コンクリート3階建，延床面積2,170.82m<sup>2</sup>，1階に事務室，センター長室，会議室，セミナー・講義室など，2，3階に教官室，大学院生室，共同利用研究員室，図書室，標本室，情報処理室，実験室などを配置し，各階には内外の研究者のコミュニケーションの場としてのラウンジを設け，単調な平面にアクセントをつけたものとなっている。また，外観は勾配屋根と土物タイルによって，滋賀の風土，地域性を表現するとともに，開口部に陰影を持たせ水平方向の広がりを強調し，周辺の緑に調和したデザインとなっている。

今回完成した研究実験棟は第Ⅰ期工事であるが，第三次補正予算により第Ⅱ期研究実験棟が予算化，建設の運びとなり，分散して行っていた研究・教育を同一施設で行うことが可能となった。

（生態学研究センター）

### 化学研究所共同研究棟竣工

化学研究所は，平成11年2月5日（金）に共同研究棟の竣工記念式典を，古澤 巖副学長はじめ部局長，名誉教授等学内外の関係者150名あまりの出席のもとで催した。

同研究所では，かねてより，老朽化した実験工場等の統合整備及び研究所全体の研究環境改善のため新研究実験棟の建設を進めていたが，昨年12月に

「共同研究棟」として竣工したもので，同研究棟は，鉄筋コンクリート造4階建3,705m<sup>2</sup>で1階は大セミナー室（232m<sup>2</sup>，200名収容）と実験室，2階以上は研究室並びに実験室からなっている。

当日は午後3時から，共同研究棟大セミナー室で竣工記念式典が開催され，杉浦幸雄化学研究所長が，共同研究棟の建設に尽力頂いた関係者への謝辞を述

べ、今後の教育、研究の新しい進展への一步とした  
いと抱負が述べられた。古澤副学長からは、共同  
研究棟の教育研究活動に果たす役割について期待が  
述べられた。

次いで、松井道太郎施設部長の工事報告に続き、  
安部矩敏文部省文教施設部大阪工事事務所長の祝辞、  
杉浦所長から建設にあたった施工関係各社に感謝状  
の贈呈があり、文部省高等教育局長はじめ関係機関  
の祝電の披露の後、竣工記念式典を終了した。

式典終了後、京都市内のホテルで開かれた祝賀会  
では、約200名の出席のもと杉浦所長の挨拶に続き、  
國近三吾名誉教授（元化学研究所長）から祝辞が述

べられ、新庄輝也前所長の発声で乾杯し、和やかな  
歓談が続き、盛会のうちに午後7時過ぎ閉会した。



（化学研究所）

## 日誌（1999年1月1日～1月31日）

1月4日 新年名刺交換会

11日 連合王国 オックスフォード大学トリニ  
ティカレッジ Michael J. BELOFF 学長来  
学，総長表敬及び関係教官と懇談

12日 オランダ王国 デルフト工科大学 Jacob  
de Swaan ARONS 教授他3名来学，総長  
表敬及び関係教官と懇談

〃 保健衛生委員会

14日 ドイツ連邦共和国 大学長訪問団  
（チュービンゲン大学 LUDWIG 学長，  
オスナブリュック大学 KÜNZEL 学長，  
ベルリン・フンボルト大学 MEYER 学長，

ライプチヒ大学 BIGL 学長，マーブルク  
大学 SCHAAL 学長及び TAUCH ドイツ  
学長会議国際部長）来学，総長表敬及び  
関係教官と懇談

16日 大学入試センター試験（17日まで）

19日 附属図書館商議会

20日 国際交流委員会

〃 総長，職員組合との交渉

25日 博士学位授与式

26日 評議会

29日 同和・人権問題委員会

## 訃報

清水 盛光 名誉教授

本学名誉教授清水盛光先生は、平成11年1月16日  
逝去された。享年94。

先生は、昭和6年九州帝国大学法文学部哲学科を  
卒業、同大学副手、助手、南満州鉄道株式会社調査  
局調査役、本学人文科学研究所嘱託、同助教授を経  
て、同24年同教授に就任、西洋社会部門を担当され

た。昭和43年停年により退官され、京都大学名誉教  
授の称号を受けられた。

本学退官後は、関西学院大学、松山商科大学（現  
松山大学）、駒澤大学教授を歴任された。

先生は、社会学とりわけ集団論、家族社会学、中  
国農村社会研究の分野において数多くの優れた研究

業績を残された。また封建諸社会の比較史的研究の発展につくされた。主な著書に『支那社会の研究』『支那家族の構造』『中国族産制度攷』『中国郷村

社会論』『家族』『封建社会と共同体』等がある。ここに謹んで哀悼の意を表します。

(人文科学研究所)

#### 船越 康宏 大学院理学研究科附属天文台助手



大学院理学研究科附属天文台助手船越康宏先生は、平成11年1月23日逝去された。享年57。

先生は、昭和40年京都大学理学部宇宙物理学科を卒業後、同大学院理学研究科、西独カールツァイス社嘱託等を経て、昭和54年10月に理学部附属天文台技官(教務職員)として就職された。その後、平成7年4月に同助手に就任され、同10年4月から、大学院理学研究科附属天文台助手として務められた。

先生は、飛騨天文台のドームレス太陽望遠鏡の建

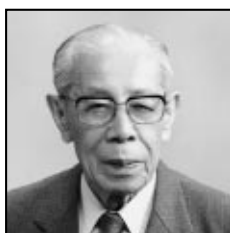
設に際して、その設計製作段階から深く参画され、その世界第一級の性能を実現する上で、大きな貢献をされた。完成後は、それをを用いた太陽活動現象の観測的研究に多くの成果を挙げられるとともに、望遠鏡の保守、周辺機器の開発に献身的な情熱を傾けられた。

また、共同利用によって来台する他機関の研究者の観測プロジェクトにも献身的に協力され、現在飛騨天文台が、太陽の地上光学観測の世界的な拠点として活躍するに至った基盤作りに大きく貢献された。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

(大学院理学研究科)

#### 辻 和一郎 名誉教授



本学名誉教授辻 和一郎先生は、平成11年1月27日逝去された。享年87。

先生は、昭和14年京都帝国大学工学部工業化学科を卒業、同大学工学部講師、助教授を経て、同25年本学化学研究所教授に就任された。昭和42年から同45年まで化学研究所長就任、評議員および化学研究所附属原子核科学研究施設長を兼ねるなど大学の管理運営にも貢献された。昭和49年停年により退官され、京都大学名誉教授の称号を受けられた。

本学退官後は、武庫川女子大学家政学部主任教授に就任、同大学家政学部長、同大学院家政学研究科

長を務められた。

先生の研究分野は、繊維化学、高分子化学で、木綿などの天然繊維の化学改質やビニロン系の改質繊維「ビニロンS」の発明・開発、エマルジョン紡糸法による混合成分繊維の製造法の発見・開発など合成繊維の改良や加工方法の開発に大きく貢献された。

その間、学会活動にも尽力され、繊維学会副会長、会長、日本接着協会副会長を歴任され、それらの功勞により昭和54年6月日本接着協会功績賞、同55年6月繊維学会功績賞を受賞された。

さらに、これら一連の功績により、昭和58年4月勲二等瑞宝章を受けられた。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

(化学研究所)



## 吉井 良三 名誉教授



本学名誉教授吉井良三先生は、平成11年1月28日逝去された。享年84。

先生は、昭和13年京都帝国大学理学部動物学科を卒業、日独交換留学生としてベルリンのカイザーウィルヘルム研究所に留学された後、第三高等学校講師、同教授を経て昭和24年京都大学教養部助教授に就任、同38年教授に昇任され、生物学を担当された。昭和52年停年により退官され、京都大学名誉教授の称号を受けられた。

本学退官後は、昭和52年9月から同58年2月まで

マレーシア国サバ州立サバ森林研究センターの昆虫学部長、同60年3月から同61年3月までインドネシア国高等教育文化局の主任顧問官を歴任された。

先生は、動物系統分類学を専門とされ、中でも原始昆虫の無翅亜綱の研究において数多くの優れた研究業績を残され、その発展に寄与されるとともに、洞穴生物学、土壌生物学の分野においても多大の貢献をされた。主な著書に『洞穴から生物学へ』、『洞穴学ことはじめ』等がある。

これら一連の功績により、昭和62年4月勲三等旭日中綬章を受けられた。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

(総合人間学部)

## 堀江 悟郎 名誉教授



本学名誉教授堀江悟郎先生は、平成11年1月31日逝去された。享年81。

先生は、昭和15年京都帝国大学工学部建築学科を卒業、興亜民族生活科学研究所助手、京都帝国大学工学部講師を経て、同16年から同21年まで兵役の後、大阪府土木部、特別調達庁に勤務された。昭和24年北海道大学工学部助教授、同36年同大学教授に就任、同46年京都大学工学部教授に配置換えとなり建築設備講座を担当された。昭和55年停年により退官され、平成9年に京都大学名誉教授の称号を受けられた。

本学退官後は、昭和55年4月から同62年3月まで

関西大学工学部教授を、同63年4月から平成10年3月まで京都建築専門学校校長を務められた。

先生は、建築設備学、建築環境工学、中でも熱および湿気に関する研究、地域暖房設備計画の研究において優れた業績を残し、その発展に寄与されるとともに、都市環境工学の分野において多大の貢献をされた。

また、北海道住宅対策審議会委員、北海道公害対策審議会特別委員、文部省学術審議会専門委員などを務められるとともに、日本建築学会において、副会長、評議員、支部長などの要職を歴任された。

これら一連の功績により、平成3年11月勲三等旭日中綬章を受けられた。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

(大学院工学研究科)

## 倉内 吟二郎 名誉教授



本学名誉教授倉内吟二郎先生は、平成11年2月10日逝去された。享年101。

先生は、大正10年京都帝国大学工学部採鉱冶金学科を卒業、同12年3月京都帝国大学助教授を経て、昭和6年8月同教授に就任、採鉱冶金学教室において採鉱学第三講座を、また昭和17年採鉱冶金学教室が鉱山学教室と冶金学教室とに分離してからは、鉱山学第三講座を担当された。昭和22年2月に退官され、同49年京都大学名誉教授の称号を受け

られた。

先生は、含金銀鉱脈鉱床の鉱山地質学・鉱物学的研究及び鉱石鉱物の物理分析の研究、特に新期含金銀石英脈の運鉱岩に関する研究、新期含金銀石英脈に伴う青盤化作用に関する研究、含金黄鉄鉱の人工的研究といった領域で業績をあげられた。

また、退官後は財団法人鉱産資源研究所を設立され、わが国の鉱物資源の探査とその開発利用の推進に尽力されるとともに地質学鉱床学ならびに鉱山開発の分野において多大な貢献をされた。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

(大学院工学研究科)

## 資料

## 平成10年度教育実習実施状況

平成10年度の教育実習は、36都道府県の各国公立高等学校107校、中学校23校、養護学校3校の協力を得て実施した。

教育実習は教育職員免許状の取得を希望する者にとっては、教育職員免許法に基づき教育実習にかかわる事前及び事後指導の1単位を含め、3単位必ず習得しなければならないものである。本学では、事前指導として例年、5月上旬にまず教育実習オリエンテーションを2日間実施し、教育実習一般、民族教育、障害者教育、同和教育について講義を行い、さらに各教科別に具体的な指導を行っている。附属学校を持たない本学としては、教育実習は原則として履修希望者の出身学校（高等学校、中学校のいずれでも可）の協力を得て、ただし、出身学校で承諾を得られない場合には京都市立学校の協力を得て実施している。実習期間は5月中旬から11月中旬までの間の2週間である。事後指導は、全体の教育実習が終了後、各教科別に行われる。

単位の認定については、教育実習校から報告される教育実習成績報告票及び実習生が提出する教育実習ノートと事前及び事後指導の評価を勘案して教育学部において行われる。

履修状況は、昭和63年12月の教育職員免許法の改正による必要修得単位の増加並びに新規教育職員の採用数減等の影響により昭和50～60年代に比して減少傾向にあったが、平成6年度から多少波があるものの増加傾向にある。参考までに、平成5年度から平成9年度までの実習終了者数と国公立学校に就職した人数を掲げておく。

## 1. 学部、研究科別実習実施状況

		学 部 ・ 研 究 科											計	
		総合人間	文	教	法	経	理	薬	工	農	人間・環境	エネルギー		情報
参加申込者		16	(4)11 46	(1)22 30	6	8	(6)11 43	3	(1) 24	(7) 11	(5) 5	(4) 4	(3) 3	(31)4 199
京都市立校	中 ・ 高 校		2	2		2	4		1	1	2		1	15
	養 護 学 校			2										2
	取り止めた者													0
	実 習 終 了 者		2	4		2	4		1	1	2		1	17
出身校	中 ・ 高 校 等	16	44	26	6	6	39	3	23	10	3	4	2	182
	取り止めた者	2	4	5	2	1	3		2	(3)3		(1)1	(1)1	(5)24
	中・高校等実習終了者	14	40	21	4	5	36	3	21	7	3	3	1	158
校種別	中 学 校	1	3	7	1	2	6		3	2				25
	高 等 学 校	13	39	16	3	5	34	3	19	6	5	3	2	148
	養 護 学 校			2										2
実習修了者		14	(4)11 42	(1)22 25	4	7	(6)11 40	3	(1) 22	(4) 8	(5) 5	(3) 3	(2) 2	(26)4 175

(注) 枠内の( )は大学院生数、[ ]は科目等履修生数でいずれも内数。

## 2. 教員として就職した者の数 平成5年度～平成9年度

学部 年度	総合人間		文		教 育		法		経 済		理		薬		工		農		人間・環境		エネルギー		計	
	就職者	実習者	就職者	実習者	就職者	実習者	就職者	実習者	就職者	実習者	就職者	実習者	就職者	実習者	就職者	実習者	就職者	実習者	就職者	実習者	就職者	実習者	就職者	実習者
H 5	-	-	3	45	8	18	1	6	1	11	4	31	0	2	0	17	0	26	0	1	-	-	17	157
H 6	-	-	0	68	4	25	0	6	1	5	6	40	0	6	1	17	0	32	0	1	-	-	12	200
H 7	-	-	3	60	6	29	0	8	0	6	1	44	1	8	2	16	0	31	0	0	-	-	13	202
H 8	0	12	1	47	4	33	1	4	0	1	2	42	0	5	0	23	1	16	0	0	-	-	9	183
H 9	0	9	5	33	5	29	0	9	0	5	2	50	0	3	2	22	0	33	0	5	0	3	14	201
合計	0	21	12	253	27	134	2	33	2	28	15	207	1	24	5	95	1	138	0	7	0	3	65	943

(教職教育委員会)

## お知らせ

高等教育教授システム開発センター  
第 5 回 大学教育改革フォーラム

「大学授業をどう変えるか - 研究から実践へ」  
Faculty Development を超えて

以下の要領で第 5 回大学教育改革フォーラムを開催しますので、興味のある方はご参加ください。

日 時 : 平成11年 3 月 27 日 ( 土 ) 13 : 00 ~ 17 : 00

場 所 : 京都大学楽友会館 2 階講演室 ( 東山近衛東入ル北側・近衛中学校向かい )

このフォーラムは、高等教育教授システム開発センターの設立趣旨に基づき、大学教育改革の在り方について、広く世に問い議論するために、年に 1 回開かれているものです。5 回目を迎える今年は、「大学の授業」がテーマです。現代は、学生像の変化、情報化社会の進展による知の砦としての大学の権威失墜などとあいまって、大学教育の意味が大きく揺らいでいます。この変化には、単なる教員の教育技術向上だけでは対応しきれず、大学で教え、大学で学ぶとはどういうことかを、教員も学生も真剣に問い直さなければならなくなってきました。今回のフォーラムでは、わが国における授業研究の第一人者である稲垣忠彦氏の講演に、独自の的方法論で大学の授業を考察している 4 人の研究者の提言を交え、これから求められる大学の教育のあり方について、検討する機会といたします。

プログラム :

挨拶 総長 長尾 真

基調講演 「大学授業をどう変えるか - 研究から実践へ」

帝京大学文学部教授 稲垣 忠彦

問題提起 1 「行動分析の観点から」

神戸大学大学教育研究センター助教授 米谷 淳

問題提起 2 「コミュニケーション分析の観点から」

メディア教育開発センター助教授 山地 弘起

問題提起 3 「教授学の観点から」

大学院教育学研究科助教授 田中 耕治

問題提起 4 「相互行為分析の観点から」

高等教育教授システム開発センター助教授 大山 泰宏

司会 高等教育教授システム開発センター長 荻野 文丸

高等教育教授システム開発センター教授 田中 每実

聴講無料

申込不要

定 員 : 100 名 ( 先着順 )

問い合わせ先 : 〒606-8501 京都市左京区吉田本町

京都大学高等教育教授システム開発センター

TEL( 075 )753 - 3087 FAX( 075 )753 - 3045